教科等研究会（小学校家庭部会）
令和６年度　研究活動のまとめ

１　研究テーマ

くらしをみつめ、家族の一員として
よりよい生活を創り出す児童の育成
～児童が達成感をもち、家庭での実践につながる授業づくり～

２　研究経過

第１回			第２回			第３回			第４回		
6／13	７名	益城中央小	8／21	７名	肥後藍御船工房 実技研 御船小 事前研	12／5	８名	蘇陽中 公開授業 授業事後研 (小中合同開催)	1／17	10名	嘉島西小 前田陽介教諭 授業研

３　研究の概要

(1) 研究の内容

ア　実技研

「肥後藍御船工房　福永幸山堂」で、講師として福永様を招聘し、「藍染めや草木染めについての講話」と「藍染め体験」を行った。学習指導要領では、グローバル化する社会の変化への対応するために、日本の生活文化に関する内容の充実が挙げられ、日本の伝統的な生活について扱うこととしている。上益城郡で使用している教科書には「日本の伝統から学ぼう」という特設コーナーがあり、「染め物」としての例として、岩手県の「紫根染め」を紹介している。上益城郡管内では、「藍染め」を身近な例として紹介できることが分かったため、実際に自分達で体験した。

イ　中学校との合同授業研究会

今年度は、中学校の授業を参観し、中学校１年生の「衣食住」の中の「食」ついての授業研究会を行った。小学校から中学校までの系統性について、小中合同で研修するのに意義ある単元が選定されており、会員は深く学ぶことができた。研究会の後半では、日常の授業での悩みや困っていることについて、小中の枠を超えて、グループ討議を行った。

ウ　授業研究会

題材名　５年「気持ちがつながる家族の時間」

内容（ｂ）これまでの学習を生かすとともに「協力」の視点から、課題をもって、家族とのふれあいや団らんの大切さを理解し、団らんの計画を行うことを目的に授業構想を行った。「家族の一員として」生活をよりよくしていこうと、団らんを計画、実践、振り返りを行うことを通して、主体的に学習ができるよう単元構想されていた。様々な家庭の状況を配慮したうえでの授業であった。

(2) 成果と課題

ア　実技研

○発展的な学習内容ではあったが、実際に染色体験をしことで、カリキュラムマネージメントを行えば、各学校で児童が学習できる教材になることが分かった。

●日程等を早めに確定し、８月の前半に研修を実施することができれば全員の参加が可能だと感じた。

イ　中学校との合同授業研究会

○これからの授業につながる機会となった。今回、食物の「旬」について学習していく場面があった。「旬」については、小学校でも簡単に取り扱う。実際の授業の場面で、そのことを教師が理解したうえで行うことで、児童の学びの連続性が確かなものになることが分かった。

●中学校との合同研究会ということで、当日まで中学校にお任せする場面が多くなってしまった。事前研なども一緒に行えば、授業研究会でも参観の視点をより明確にもって参観できたのではないかと思った。

ウ　授業研究会

○今回の学習を行うにあたり、１学期から児童の生活背景や家族への思いを把握するために、アンケ

ートのみならず、児童との日常会話や日記指導等を大事にされてきた。さらに、気になる児童については、保護者とも連携をとられたことで、全員が自分で団らんの計画を立てることができていた。家族や家庭に踏み込み、子供と保護者の実態を把握し授業づくりを行ったところが勉強になった。

〇授業の中で、「めあて」に立ち返ったことで、児童が「相手と目的」を常に意識しながら、団らんの計画を立てようとしていた。教師と児童が、明確に「めあて」を理解して授業に臨むことで、確かな学びにつながっていくことを実感できた。

●課題解決の場面で、電子黒板に掲示されたものが消えてしまい、教師の意図と少しずれてしまう様子があった。板書計画を行う場合、デジタルで表示するもの（消えてしまうもの）板書に残すものを本時の学習内容を踏まえて計画をしておかないといけなかった。

●互いの意見を交流する場面では、「いいです」ではなく、友達の意見を聞き、自分はどう考えたのかと反応していくことで、互いの考えがより深まり、団らんを行う意味や目的をもっとはっきりもてたように感じた。

４　実践事例

(1) 授業の概要

題材名　５年「気持ちがつながる家族の時間」（開隆堂）授業者　前田　陽介　教諭

本題材は、「協力」という視点から、で家族とのふれあいや関わりを工夫することを通して、家族の一員としてできることを考え、安全かつ快適で、豊かな家庭生活を工夫していくことへつなげていく。本時では、相手意識（家族）をもって「団らん」の計画ができるように、相手と目的を前時に決めておき、本時では「内容」に絞っておこなわれた。また、互いの計画にアドバイスを行う場面では、それぞれの家庭の状況が様々であることを踏まえ、そこでも相手意識をもつ手立てをされていた。授業の週末には、一人一人の児童が、「団らん」をしてみたい、楽しんでもらいたいという思いをもつことができていた。

(2) 学習構想案

第５学年２組　家庭科　学習構想案

日　時　令和７年１月１７日（金）第５校時
場　所　５年２組教室
指導者　教諭　前田陽介

１　単元構想

単元名	気持ちがつながる家族の時間		
単元の目標	（１）　家族とのふれ合いや団らんの大切さについて理解できる。［知識及び技能］ （２）　家族とのよりよい関わりについて問題を見出して課題を設定し、さまざまな解決方法を考えることができる。［思考力、判断力、表現力等］ （３）　実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決することができる。［思考力、判断力、表現力等］ （４）　家族の一員として、生活をよりよくしようと、家族との関わりについて、課題解決に向けて取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとすることができる。［学びに向かう力、人間性等］		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①　家族とのふれ合いや団らんの大切さについて理解している。	①　家族とのよりよい関わりについて問題を見出して課題を設定している。 ②　家族とのよりよい関わりについて、さまざまな解決方法を考え、工夫している。 ③　家族とのよりよい関わりについて、実践を評価・改善し、考えたことを表現している。	①　家族の一員として、生活をよりよくしようと、家族との関わりについて、課題解決に向けて取り組もうとしている。 ②　家族の一員として、家族との関わりについて、一連の活動を振り返って改善しようとしている。
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			

家族との関わりについて、家族とのふれ合いや団らんの大切さを理解し、家族とのよりよい関わりを考え、自分や家族に合った関わり合い・団らんの工夫をする姿。	
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）	**本単元で働かせる見方・考え方**
家族と「気持ち」をつなげる、団らんをしよう。	「協力」という視点で、家族との関わりを工夫することを通して、将来にわたって家族の一員としてできることを考え、豊かな家庭生活を工夫すること。

指導計画と評価計画（３時間扱い　本時２／３）

過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体の評価規準を記載」
一	1	○団らんの良さや家族と触れ合う時間の楽しみ方を見つけて、学習課題を設定し、団らんの目的と相手を考える。	【思①】（記述・観察） ○家族とのよりよい関りについて問題を見出して課題を設定している。 【主①】（発言・観察） ○家族の一員として、生活をよりよくしようと、家族との関わりについて、課題解決に向けて取り組もうとしている。
二	1	○家族の団らんの計画を立て、工夫する。 【本時】	【知①】（記述・観察） ○家族とのふれ合いや団らんの大切さについて理解している。 【思②】（記述・観察） ○家族とのよりよい関わりについて、さまざまな解決方法を考え、工夫している。
三	1	○実践したことを発表し合い、評価・改善を行う。	【思③】（記述・発言・観察） ○家族とのよりよい関わりについて、実践を評価・改善し、考えたことを表現している。 【主②】（記述・観察） ○家族の一員として、家族との関わりについて、一連の活動を振り返って改善しようとしている。

２　題材における系統及び児童の実態

教材・題材の価値

本題材では、家族との関わりについて、課題をもって、家族とのふれ合いや団らんの大切さを理解し、家族との関わりに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、よりよい関わりを考え、工夫することができる。それぞれの家庭の実態に合った団らんの計画、実践、振り返りの活動を通して、家族の一員として主体的に家庭生活に関わろうとする意欲を育てることができる。また、本題材では、自分にとって家族とはどういった存在なのかを捉えなおす機会になるとともに、家族に対して様々な感情を抱えている児童も、家族のことを考え、「団らん」を通して家族と「つながる」ことができる価値がある。

本単元における系統（横軸を当該学年での多領域とのつながり、縦軸を他学年での同領域のつながり）

小５　私の生活、 ― 小５　気持ちが繋がる家族の時間 ― 小６　見つめてみよう ― 小６　あなたは家庭や地域の宝物

児童の実態（単元の目標につながる学びの実態）

○本学級意識調査の結果より（令和６年１２月実施）　３５名　（４肯定的～１否定的）

意識調査の項目	4	3	2	1
家庭科の授業は好きですか。	１３	１９	３	０
家庭のお仕事やお手伝いはしていますか。	８	１９	８	０
↑それはどんなことをしていますか。	・兄弟のお世話 ・お風呂そうじ ・りょうり　など			
家族の一員として、よりよい家庭生活にしようとしていますか。	１４	１８	３	１
家庭科で習ったことで、得意なことやできるようになったことはありますか。	３２		３	
↑それはどんなものですか。	・さいほう ・整理、整とん ・おみそしるを作ること ・包丁でものをきる　など			
あなたは学級の一員として役に立っていると思いますか。	１０	１８	６	１

○考察
　本学級の意識調査によると、家庭科の授業に対して肯定的に取り組んでいる児童が多い。また、家庭科の学習で得意なことやできるようになったことが多いと感じている児童は多いが、それを家族の一員として家庭生活に生かしている児童は、多くはない。
　本学級では様々な家庭の実態がある。どのような活動においても、「誰かのために」という相手意識をもって学習に取り組む児童が多い。しかし、中には複雑な家庭の事情を抱え、前向きな感情を抱けずに登校してきている児童が数名いる。本題材の学習を通して、家族の一員として役に立てた喜びを実感させ、児童が家族との繋がりをより深めていけるような学習にしていくことが大切であると考える。また、学習を終えたときに、児童が自分の家庭を明るくしていこうとする態度を育てることが大切であると考える。そのためには、本教材・題材に入るまでに、児童の家族の捉え方を把握することや、それまでの教師の働きかけが重要になると考える。

３　指導に当たっての留意点

○児童全員が団らんを「やってよかった」と思えるように、家庭と連絡を取ったり、それぞれの家庭にあった団らんができるようなるべく多くの選択肢を与えたりするなどの支援を行う。
○一人学び→全体・班→一人学びといった学習活動の流れを組むことで、児童のつまずきを児童同士の学び合いで解消できるようにする。
○単元を通して、相手（家族）の立場に立たせることで、単元終了時により家族のことをかんがえることができるようにする。

４　事前の取り組み

○家庭との連携を行い、児童の家庭での様子や、保護者からの児童の捉え方などを把握した。また、児童から要望があった場合、保護者と３人で話す機会や、児童の想いを代わりに伝える場面を設定した。
○生活ノートの一言日記（毎日）を通して、児童自身に家庭や家族のことを綴る機会を作った。
○アンケートを通して、家庭や家族のことや捉え方について把握した。
○児童との信頼関係を築き、面談や日常会話から、児童の家庭や家族についての「ありのまま」の想いを知るように努めた。
○各教科等（主に家庭科や人権学習）を通して、家族や家庭について綴る機会を作った。また、家庭と繋がる学習活動からは、家庭や家族の様子を把握することができた。

５　本時の学習（第２時／全３時間）

(1)　**目標**　家族とのふれ合いや団らんの大切さについて理解し、家族とのよりよい関わりについて考え、目的や相手に合った団らんを計画することができる。

(2)　**展開**

過程	時間	学習活動 （◇予想される児童の発言）	指導上の留意事項 （指導・支援の意図、内容、方法等）
かだいをつかむ	6分	１　前時を振り返る。 ◇「団らん」とは家族や親しい人たちと集まってふれ合いの時間を過ごすこと。 ２　課題を設定する。 ◇今日は団らんを計画する。 ◇自分の家庭に合った計画を立てる。	○団らんの定義や、なぜ団らんを行うのかを確認させる。 ○自分の団らんの「目的」と「相手」を確認させる。 ○それぞれの家庭があることを確認することで、計画を立てる際に「自分の家庭に合った計画」を立てることを注意させる。
		【めあて】目的や相手に合わせ、「こころ」がつながる団らんを計画しよう。	
しっかり考える	35分	３　団らんの計画を立てる。 ◇日曜日の昼に行おうかな。（いつ） ◇お茶を入れて、お菓子も出そうかな。（なにを） 【学びのUD化の視点】 計画を立てる際の項目やアドバイスの視点を提示し、視覚化する。	○団らんの計画を立てる際の項目（目的・いつ・だれと・なにを）を提示することで、スムーズに計画を立てれるようにする。 ○計画を立てる際に、今までの学習したことが生かせるように既習事項を提示する。 ○相手の立場に立って団らんを計画させるようにする。（相手意識） 【到達していない児童への手立て】 目的を軸に作っていくことを声かけたり、既習事項から選択させたり、友達の計画を参考させ

			たりする。
		4　全体で共有する（「何を」） ◇ケーキを作ります。なぜならお母さんと仲良くなるのが目的だからです。	○何をするのかを発表させた後、なぜそれを行うのか（「目的」や「相手」の視点に立ち返らせる）問う。 ○計画するうえでの困り感を全体で共有し、解決させる。
		5　班で交流して、アドバイスし合う。 ◇話す内容を決めておいた方が盛り上がるかもね。 ◇弟や妹も参加できる計画にしたいよね。	○アドバイスの視点を提示する。 ○あくまで「自分の家庭に合った計画」であるということを押さえ、アドバイスする際の相手意識をもたせる。
		6　計画を工夫・修正する。 ◇みんなが楽しめるように、トランプをしようかな。 ◇○○さんのように、話す話題を決めておこうかな。	【具体の評価規準】思② 家族とのよりよい関わりについて、さまざまな解決方法を考え、工夫している。 （発言・ワークシート）
まとめ・ふりかえる	4分	7　振り返りを行う	
		【ふりかえり】 目的や団らんをする相手に合った団らんを計画することが大切だと思った。家族みんなが楽しめる団らんができるといいな。	
		8　団らんの計画・準備物を確認する。	○団らんの実践に向けて、必要なものなどを確認させておき、それぞれ準備ができるようにする。